

福岡市環境教育・学習計画推進協議会 議事録 要旨

- 日 時：平成25年8月26日（月）13：30～15：30
- 場 所：アクロス福岡6階605会議室

■議事：福岡市の環境教育・学習関連施策について

（事務局）資料1を抜粋して説明。「福岡市環境教育・学習計画（第二次）」の中で示した10の基本的方向に基づいて平成24年度に行った行政の取り組み実績について報告

◇各委員からの主な意見

〈公民館での環境教育・学習について〉

- ・公民館主催の環境関連事業は、年間約50館、回数は200回程度、人数は5000人くらい。
- ・地域に応じた取組の項目の1つとして行っている。
- ・地域での課題に即した内容になっている。
- ・教育委員会でも環境教育をまとめており、その中に公民館についてのものもある。
- ・公民館には全館で必ず行う基本事業と、地域の特性に応じたその他の事業があり、環境は後者。
- ・環境はどこの切り口からも入れる。
- ・環境というタイトルにこだわることはなく、中身がきちんとあればいい。
- ・「環境」はものすごく関心を持っている方もおられる一方で、なんとなく必要性はわかるけれどもという方も多いので、集めて関心を持ってもらうには工夫が必要。
- ・地域の特性に応じた地域の方が関心を持つことをやったりだとか、ダンボールコンポストや廃油石鹸などの体験型のものをするなど、工夫をしている公民館の取組みは人気がある。

〈企業の環境教育・学習について〉

- ・九州エネルギー館が来年の3月2日に閉館する。
- ・九州エネルギー館は大変役に立つ施設で、本当は公共でやるべきものをしてもらっていた。
- ・出前講座を要望の団体等には、担当が外向いて、エネルギーについて説明している。
- ・出前講座をしている企業一覧などがあればいいと思う。
- ・学校で申し出があれば店舗自体で学習していただけるようなところがある。リサイクルの状況や環境配慮型の商品の紹介、買い物袋持参運動などを説明している。
- ・地域の子どもたちに会員になっていただいて環境学習の支援をしている。

〈学校での環境教育・学習〉

- ・学校への学習支援事業はたくさんあるが、そこからなにをとって子どもたちのために活かしていくのかということは、重点化する必要がある、学校の特性を活かしていかなければいけない。
- ・小学校で出前講座をする時は、家に帰ってお父さんお母さんに話をしなさいと言い、子どもを使って親を教育している。
- ・学校の教員の方から話をすると、環境局の方や企業の方など専門的な方が出てきてくださる出前授業はありがたい。
- ・教育委員会を通して全部の学校に配信したり集約したりとなると、学校側はととてもとても手が回らない。

〈本市の取組みについて〉

- ・福岡がリーダーシップをとってやっている事業も多いので、それをPRできていないのがもったいない。
- ・入口での環境教育は持続可能な形で継続しなければいけないという反面、アラカルト方式によって、進んだ知識を持った人たちが進んだニーズに応えられるような教育の仕方もある。
- ・所管課による評価等には過去の実績は書いてあっても、目標とするところがないので、自己評価されるときには目標があれば、○や△などなぜそう評価されたかがわかっていい。
- ・◎の評価をされたものは、なにが効果的だったのかをアピールすれば、△の事業などが活かせること

もあるのではないか。

- ・情報源情報として行政の方がどこにいけばどういう情報が得られるのかということ発信できるような仕組みを考えなければいけない。
- ・あらゆる事業の中に環境という視点が入るような働きかけが出来る事業の仕組みを考えていく必要がある。
- ・国際のテーマがまだ入っていない。アジアなどから福岡には相当視察が来ていると思うし、ニーズもあるので今後そういったテーマも入ってくればいい。
- ・環境を知る講座の受講者が減ったことが気になる。
- ・講座同士をつなぐというか、講座の卒業生に次の講座の講師をやってもらうなど卒業生を活かせれば。
- ・いろいろな専門家の人がつながって、学校で出来ない体験活動を子どもたちに提供してあげたい。
- ・講座は、いきなり専門的な話に入ってもマニアックにしか関心と呼ばないので、横断的に話をしなければ。
- ・講座はどのようなカリキュラムを作ってどのような内容をやるのかという体系的な整理をしておかなければいけない。
- ・一般的な公民館教育とは違うよう、何を狙いにするのかを明確にする必要がある。
- ・講座に出たらポイントがもらえる制度があればおもしろいかもしれない。

■報告1：「平成24年度市政に関する意識調査」について

(事務局) 資料2を抜粋して説明。「平成24年度市政に関する意識調査」の結果について報告

◇各委員からの主な意見

- ・注目すべき点は東日本大震災の後に意識が変化して、エネルギーに関する環境意識の変化が大きくなった。
- ・グローバル化に関する環境教育への対応がまだ出来ていないことの寂しさがある。
- ・SNSなどの利用は、若者はもう少し割合が高くなりそうな気がする。
- ・「購入する製品・サービスが環境に与える影響の情報」や「環境を守ったり良くしたりするために、企業が行う活動」への関心という項目は、前回と比べてすごく関心度が高くなっているという結果が、自社独自で実施したアンケートの結果とほぼ同じなので驚いた。そういった傾向があるのだと思う。
- ・活動に参加したくない理由として、情報不足があったので、企業としては発信しているけれど伝わっていないというところもあるのだと感じた。
- ・活動に参加するかという設問があるが、なにをもって「参加」なのか、聞かれる側がかってにイメージを持って答えてしまうということがありそう。もう少し聞き方を工夫したがよい。
- ・学校で子どもたちが習ったことが発端でリサイクルをしていますとかいったことも聞いていただきたい。
- ・東日本大震災があつて意識の変化があつたということで、このままにしていたらまたもとに戻ってしまうので、若い人に徹底的に環境教育すべき。
- ・最終的には温暖化対策を考えていかないと、今の私たちが「電気がなくなったら大変だ」というくらいの意識の変化では困るので、もっと意識の変化というものは根源的なところでなければ。
- ・環境教育を受けていなくてモラルマナーとしての環境ということにも触れていない人間たちが25歳くらいからいる。その世代たちが環境を今どうとらえているのか非常に知りたい。

■報告2：「福岡市環境教育・学習計画（第三次）策定」について

(事務局) 着手時期を前倒し、今年着手する予定であったが、現計画の計画期間に合わせた形で、来年から策定に着手したいと説明。

■事務連絡

(事務局) 委員の任期が来年1月31日までのため、改めて委員への就任を依頼。また、委員改選後の来年2月に次回の協議会を予定していることを報告。

■閉会